

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校悠ゆう**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づき運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その方が生きてきた過程と尊敬を大切に、安心して笑顔で過ごせる様、理念を共有しケアにあたっている。	その方が生きてきた過程と尊敬を大切に、安心して笑顔で過ごせる様、理念を共有しケアにあたっている。	運営規定を基に、生きることの支援「尊敬を大切に」を理念とし、「その人らしくやれることを奪わない」「安心して笑顔ですごせる」を入職時に研修。管理者と職員は、日常的に朝礼・昼礼で理念の共有を図り、一人ひとりが笑顔で過ごせるように日々接し、理念がケアに反映される様に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域行事には声をかけてもらっており積極的に参加している。毎年地区の文化祭には合唱発表で参加させてもらったり、作品も出展している。日々の生活に中での挨拶には心がけている。また、雪が降った際には、職員が積極的に近隣の雪かきを行うなどしている。	地域行事には声をかけてもらっており積極的に参加している。毎年地区の文化祭には合唱発表で参加させてもらったり、作品も出展している。日々の生活に中での挨拶には心がけている。また、雪が降った際には、職員が積極的に近隣の雪かきを行うなどしている。	自治会に加入している。外出すれば必然的に地域の方と顔を合わせる機会があり地域行事への誘いも多くある。毎年地区の文化祭に作品を出展したり、シニアと合同で合唱を2曲発表するなどし交流を深めている。事業所前の道路が通学路であり、地域住民と協力し雪かきなどにも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携をとり地域での困りごとなどに対応したり、相談に立ち寄られる方や道で声をかけてもらう事も随時対応している。	地域包括支援センターと連携をとり地域での困りごとなどに対応したり、相談に立ち寄られる方や道で声をかけてもらう事も随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの状況等について報告し感想や意見を述べてもらっている。会議での意見や会話を職員会議等で報告し今後のサービスに活かしている。	運営推進会議においてサービスの状況等について報告し感想や意見を述べてもらっている。会議での意見や会話を職員会議等で報告し今後のサービスに活かしている。	第2水曜日・奇数月の午前中にシニア施設で合同で行っている。帰宅願望・児童虐待など参加者から意見がある。利用者の状況報告から始まり3階・4階の事業所の関連から幅広い分野での話に発展、申し送りノートで共有しサービスに繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った事や疑問点があった場合は市役所に行ったり、電話をし相談ののってもらっている。	困った事や疑問点があった場合は市役所に行ったり、電話をし相談ののってもらっている。	市の担当者とは運営推進会議の議事録・変更届・更新手続き・認定調査の書類を届ける際、話をする機会がある。特段の理由のある方の入居対応・独居の方の急遽の受け入れ時の対応等のアドバイスも頂いている。地域包括との協力体制も密にできており、相談しやすい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解するよう職員研修や職員会議を利用して定期的に指導している。日々の何気ない声かけの中にも拘束が潜んでいることを周知徹底している。拘束によるケアは決して良い方向には進まないことを職員に理解してもらっている。	全職員が身体拘束について理解するよう職員研修や職員会議を利用して定期的に指導している。日々の何気ない声かけの中にも拘束が潜んでいることを周知徹底している。拘束によるケアは決して良い方向には進まないことを職員に理解してもらっている。	毎月1回、甲府事業所内研修が第一火曜日に開催される。身体拘束・虐待など内部講師が1つ1つ細かな指導を行う。研修終了後レポートを書き管理者に提出。日常業務の中で誰でも声掛けなどについて、お互いに注意し合える環境が整っている。職員は出勤・退勤時は必ず挨拶をする。また利用者が自己決定できるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体への暴力だけが虐待ではなく、身体拘束同様、言葉かけや何気ない対応も虐待につながることを注意として促している。入浴時や健康チェック時、体調の変化に注意し気づくことが大切であることを指導している。	身体への暴力だけが虐待ではなく、身体拘束同様、言葉かけや何気ない対応も虐待につながることを注意として促している。入浴時や健康チェック時、体調の変化に注意し気づくことが大切であることを指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を設けているが全職員が理解し説明でき事には難しさが残る。個々の必要性に応じて利用者や家族に適切に導入してもらう事や支援していくことが課題である。	制度について学ぶ機会を設けているが全職員が理解し説明でき事には難しさが残る。個々の必要性に応じて利用者や家族に適切に導入してもらう事や支援していくことが課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と連絡を取り合い、不安な点、疑問な点について納得・理解してもらうよう対応している。利用開始後においても疑問や不安な点も出てくると思うのでその都度答えられる様に対応している。	家族と連絡を取り合い、不安な点、疑問な点について納得・理解してもらうよう対応している。利用開始後においても疑問や不安な点も出てくると思うのでその都度答えられる様に対応している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめだかの学校悠ゆう

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話や運営推進会議において、家族からあがった意見や要望は職員会議や日々の業務の中で職員に伝え、改善に取り組んでいる。運営に反映したことや検討していることを、面会時や運営推進会議において報告している。	面会時や電話や運営推進会議において、家族からあがった意見や要望は職員会議や日々の業務の中で職員に伝え、改善に取り組んでいる。運営に反映したことや検討していることを、面会時や運営推進会議において報告している。	面会時、家族から職員の声掛けについて意見があり、管理者・職員等で話し合い改善に向けて取り組み、運営推進会議でも報告している。また、退院後の生活・歩行についての相談があり、歩行器利用してみることとなり業者に対応してもらおう等、次に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員の意見や要望等を聞くように心がけている その場では言いにくい場合は個別に時間を作る様に心がけている。可能なものについては、導入している。	日々の業務の中で職員の意見や要望等を聞くように心がけている その場では言いにくい場合は個別に時間を作る様に心がけている。可能なものについては、導入している。	管理者が職員といつでも話し合える時間を作り、日々の業務の中で自由に意見が言える環境である。シフトの変更やシャワーキヤー購入の意見があり検討中。職員のアイデアで毎年紫陽花寺へ花見に行く等、意見が反映されている。また、利用者と一緒に吊るし鑑・美術館へ絵画鑑賞等検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望や職員の勤務可能な条件等も考慮し勤務を作成している 能力ややる気に応じた昇給も行っている。	休み希望や職員の勤務可能な条件等も考慮し勤務を作成している 能力ややる気に応じた昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回の内部研修や月1回の職員研修を行い知識や技術の向上に努めている。外部の研修にも参加できるように案内を周知したり、必要に応じ参加要請している。 学んだことは報告してもらい職員間の学びの機会としている。	年5回の内部研修や月1回の職員研修を行い知識や技術の向上に努めている。外部の研修にも参加できるように案内を周知したり、必要に応じ参加要請している。 学んだことは報告してもらい職員間の学びの機会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内いくつかの施設があるので交流や研修は積極的に行っている。他施設との相互訪問も取り入れ情報交換やサービス向上に努めている。	法人内いくつかの施設があるので交流や研修は積極的に行っている。他施設との相互訪問も取り入れ情報交換やサービス向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅や本人が生活している場所へ訪問し顔合わせをするようにしている。また、家族や身近の方に接し方や生活について聞き入居後顔を合わせた時に安心してもらえるような声かけなどの対応を心がけている。	入所前に自宅や本人が生活している場所へ訪問し顔合わせをするようにしている。また、家族や身近の方に接し方や生活について聞き入居後顔を合わせた時に安心してもらえるような声かけなどの対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは入居前から話す機会も多いので困っている事、不安におもうことに耳を傾け状況を理解し安心してサービスを利用できるように心がけている。また、家族の思いを受けとめ、助言や支援に努めている。	家族とは入居前から話す機会も多いので困っている事、不安におもうことに耳を傾け状況を理解し安心してサービスを利用できるように心がけている。また、家族の思いを受けとめ、助言や支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞き、その方が望んでいる支援を広い視野を持ち適切なサービスが受けられる様、また、誤解や不安を招かない様話し合う機会を持つように心がけている。	本人や家族の話を聞き、その方が望んでいる支援を広い視野を持ち適切なサービスが受けられる様、また、誤解や不安を招かない様話し合う機会を持つように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気大切に自身が出来た事は出来るかぎりして頂き、時には娘、息子、孫の様にお互いが声を掛け合うような和やかな関係作りが出来ている。	家族的な雰囲気大切に自身が出来た事は出来るかぎりして頂き、時には娘、息子、孫の様にお互いが声を掛け合うような和やかな関係作りが出来ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校悠ゆう**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族にしかわからない思いもあるためその関係を崩さないよう少しでも共有させていただき支えられたらと思っている。また、苦しい時こそ話してもらえ一緒に考え力になれるようになっていきたい。そのためにも、信頼関係をきずける様面会時など声をかけながら話せるよう心がけている。	本人や家族にしかわからない思いもあるためその関係を崩さないよう少しでも共有させていただき支えられたらと思っている。また、苦しい時こそ話してもらえ一緒に考え力になれるようになっていきたい。そのためにも、信頼関係をきずける様面会時など声をかけながら話せるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から住んでいた地域や生まれ育った環境や関わりのあった方々の話を聞き、個別外出などで出かけたり、知人や親せきの方にも可能な限り面会に来ていただける様お願いをしている。	本人や家族から住んでいた地域や生まれ育った環境や関わりのあった方々の話を聞き、個別外出などで出かけたり、知人や親せきの方にも可能な限り面会に来ていただける様お願いをしている。	馴染みの関係把握には、家族や親せきの方・面会時友人から情報を得、家を見に行く等馴染みの場へ行ったり、地域の小学校へ曾孫が通っているの、運動会を見に行く等、継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気や大事にし、皆で和気あいあいと話したり、入居者同士で慰め合う、支え合う光景も見られている。時にはもめこともあるがその際には職員が見守りながら孤立する方がいない様、話の間に入り皆が楽しく過ごせるよう努めている。	家庭的な雰囲気や大事にし、皆で和気あいあいと話したり、入居者同士で慰め合う、支え合う光景も見られている。時にはもめこともあるがその際には職員が見守りながら孤立する方がいない様、話の間に入り皆が楽しく過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所に伴い契約解除になった後も、必要に応じて家族と連絡を取り合い、困ることがないよう相談に乗り支援できるよう、努めている。	入院や施設入所に伴い契約解除になった後も、必要に応じて家族と連絡を取り合い、困ることがないよう相談に乗り支援できるよう、努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと話を聞く機会を日々の生活の中で見つけに行っている。本人に意向がはっきり聞けない場合は行動や何げない会話の中から見つけ出すよう考え支援している。意向にそえないものは、話を分かってもらえる様にまた、別な方法を考える様努めている。	一人ひとりと話を聞く機会を日々の生活の中で見つけに行っている。本人に意向がはっきり聞けない場合は行動や何げない会話の中から見つけ出すよう考え支援している。意向にそえないものは、話を分かってもらえる様にまた、別な方法を考える様努めている。	思いは日々の生活の中で把握したり家族から情報を得たりする。また、直接言って来ることが多く、主に食へる事への要望である。一人ひとりの思いを職員同士申し送りノートや申し送り時に共有している。帰宅願望のある方は一緒に外に出たり、個別外出をしたり、できるだけ思いや意向に沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から若い時の話などを聞く機会を設ける様にしている困難な場合は家族から可能な限り話を聞き把握に努めている。面会にいらした親戚や知人より失礼のない範囲でお聞きしている。話す事を拒否することもあるので、その際はあえて触れない様配慮している。	本人から若い時の話などを聞く機会を設ける様にしている困難な場合は家族から可能な限り話を聞き把握に努めている。面会にいらした親戚や知人より失礼のない範囲でお聞きしている。話す事を拒否することもあるので、その際はあえて触れない様配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活習慣を大事にししながら、一日の過ごし方を把握するように努めている。職員同士が日々気づいた事や情報を共有しその方がもっている力を奪わず維持し生活していける様心がけている。まずは、出来ないではなくやっていた事から始める。	今までの生活習慣を大事にししながら、一日の過ごし方を把握するように努めている。職員同士が日々気づいた事や情報を共有しその方がもっている力を奪わず維持し生活していける様心がけている。まずは、出来ないではなくやっていた事から始める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度の職員会議で話し合い検討している。日々の生活の中で気づいた事や要望、変化に対して、職員がチームとして都度話し合い送りノートも活用し共有し、介護計画に反映できるよう心がけている	月1度の職員会議で話し合い検討している。日々の生活の中で気づいた事や要望、変化に対して、職員がチームとして都度話し合い送りノートも活用し共有し、介護計画に反映できるよう心がけている	事前打ち合わせを自宅で行い、意見や要望を聞き、サマリーや前介護支援専門員からの情報と合わせ暫定プランを立て毎月1回モニタリングし、サービスを提供し、家族の意見や楽しみごと組み込んだ本プランを半年ごとに立てる。状態が変化した場合、モニタリングに基づいた計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や利用者の言葉やケアについて記録に残し、気づいた事柄は申し送りノートに記入し、職員間で共有している。日々変わることなので臨機応変に対応している。	日々の生活の様子や利用者の言葉やケアについて記録に残し、気づいた事柄は申し送りノートに記入し、職員間で共有している。日々変わることなので臨機応変に対応している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめだかの学校悠ゆう

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変な柔軟な対応を心がけている。既存のサービス規制に縛られてしまいニーズに応えられないことや難しい現状があるが代替えになることなどを探り対応に取り組んでいる。	ユニット名(2階) 臨機応変な柔軟な対応を心がけている。既存のサービス規制に縛られてしまいニーズに応えられないことや難しい現状があるが代替えになることなどを探り対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として把握している部分もあるが、入居施設という中で資源活用が難しい場合もある。近隣の店に買い物に出かけることも地域資源の一つであると考え広い視野を持ち安心・安全に暮らせる様支援していきたい。	地域資源として把握している部分もあるが、入居施設という中で資源活用が難しい場合もある。近隣の店に買い物に出かけることも地域資源の一つであると考え広い視野を持ち安心・安全に暮らせる様支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・家族にかかりつけ医を聞いている。入所と同時にかかりつけ医との関係が切れない様、家族の協力を得ながら受診している。また、一緒に受診に付き添うなど主治医と面識をもち、関係作りを努めている。	入所時に本人・家族にかかりつけ医を聞いている。入所と同時にかかりつけ医との関係が切れない様、家族の協力を得ながら受診している。また、一緒に受診に付き添うなど主治医と面識をもち、関係作りを努めている。	かかりつけ医については、契約時に確認し自由に選択してもらっている。かかりつけ医は基本家族対応で伝えたい事・1か月の記録を画面で持参。受診結果報告は口頭で行われ記録に残し共有、薬・お薬手帳・薬表は預かり確認する。他の利用者は職員が法人の病院に付き添い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護師は常駐してはいないが、介護職員には気づきを心がけてもらっており、気づいた事は随時、管理者に報告、相談し職場内の看護師に相談し家族と話し合い、適切な受診や介護が受けられるよう支援している。	ホーム内には看護師は常駐してはいないが、介護職員には気づきを心がけてもらっており、気づいた事は随時、管理者に報告、相談し職場内の看護師に相談し家族と話し合い、適切な受診や介護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時は、情報提供を行っている。入院中は連絡を取り合い、退院時にはいつでも対応出来る様相談させてもらっている。退院後の生活が無理なく送れるよう指導してもらっている。馴染みのある病院との関係作りは出来ているが、関係作りが出来ていない病院も多く今後、取り組む課題と思っている。	入居者が入院した時は、情報提供を行っている。入院中は連絡を取り合い、退院時にはいつでも対応出来る様相談させてもらっている。退院後の生活が無理なく送れるよう指導してもらっている。馴染みのある病院との関係作りは出来ているが、関係作りが出来ていない病院も多く今後、取り組む課題と思っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢ということもあり、先のことを考え入居時、契約時から本人・家族と意向や希望を話し合うようにしている。家族が誤解せず、理解し受け止めて下さるよう話し合う機会を時折設け、時間をかけ取り組んでいる。また、家族から相談を受けることも増えているので常に対応出来る様心がけている。職員にも終末期について勉強会も取り入れている。	高齢ということもあり、先のことを考え入居時、契約時から本人・家族と意向や希望を話し合うようにしている。家族が誤解せず、理解し受け止めて下さるよう話し合う機会を時折設け、時間をかけ取り組んでいる。また、家族から相談を受けることも増えているので常に対応出来る様心がけている。職員にも終末期について勉強会も取り入れている。	契約時、終末期について事業所で出来る事を説明し検討してもらう。看取り希望の方は、往診医により受診している。これまでに看取りの経験はないが、終末期に看取りをして欲しいとの意見もあり、職員も看取りに対する意識付けや、勉強会を行なっている。重度化した場合、医療行為が無ければ家族や医師と連携を取りながら関わることができるように体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会において職員が講師となり、緊急時の対応・連絡体制を研修している。また、最低でも年1回は救急法を日赤救急法指導員を講師に招き指導を受けている。	内部研修会において職員が講師となり、緊急時の対応・連絡体制を研修している。また、最低でも年1回は救急法を日赤救急法指導員を講師に招き指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回、外出時を利用したり時間を作り避難訓練を行っている。また、職員研修においても毎年、消火器体験も取り入れている。夜間想定避難訓練もやっている。 運営推進会においても地域にもしもの時の協力をお願いや逆に近隣の方からも災害時の避難場所としての活用をお願いされている。	年数回、外出時を利用したり時間を作り避難訓練を行っている。また、職員研修においても毎年、消火器体験も取り入れている。夜間想定避難訓練もやっている。 運営推進会においても地域にもしもの時の協力をお願いや逆に近隣の方からも災害時の避難場所としての活用をお願いされている。	同建物内で夜間を想定した訓練も含め年3回以上実施している。内部研修は他の事業所と合同で水消火器操作体験を行い、それぞれの訓練の振り返りを行い、時間の把握も行っている。マニュアルがある。その他、年1回地域の避難訓練にも数名の利用者と一緒に参加。利用者外出時に火災を想定した訓練も行っている。災害時の避難場所として受け入れを行う様になっており備蓄品を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の気持ちを忘れずに、一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷つけないよう馴染みの関係を保ちつつ声かけに配慮している。 職員には会議時、研修時、業務内において、声かけや対応の指導をしている。	人生の先輩としての尊敬の気持ちを忘れずに、一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷つけないよう馴染みの関係を保ちつつ声かけに配慮している。 職員には会議時、研修時、業務内において、声かけや対応の指導をしている。	法人内部研修を2か月に1回実施。基本、声掛けは敬語で心のこもった対応を心掛けている。人生の先輩であることを忘れないように接し、トイレ誘導は暗号を使い、声掛けは小さな声でプライバシーに配慮した対応を行っている。自己決定できる場も作っている。守秘義務・個人情報保護はしっかり行っており、入職時、誓約書で確認している。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームめだかの学校悠ゆう	外部評価	
自己	外部	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		ユニット名(1階)	ユニット名(2階)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に話す機会を設けたり、問いかけるような声かけを行い、本人が思いを言えるような環境作りに努めている。職員は聞く姿勢を持ち意向を開ける雰囲気作りに努めている。	個別に話す機会を設けたり、問いかけるような声かけを行い、本人が思いを言えるような環境作りに努めている。職員は聞く姿勢を持ち意向を開ける雰囲気作りに努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人にあつた支援をするよう心がけている。時として、時間や都合でペースに合わせられない場面や状況もあるので、工夫や代わりに出来る事を考えながら支援や対応をしていく様心がけている。	その人その人にあつた支援をするよう心がけている。時として、時間や都合でペースに合わせられない場面や状況もあるので、工夫や代わりに出来る事を考えながら支援や対応をしていく様心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみとして髪をとかず、髷をそることは習慣として支援している。外出時には普段とは違う洋服を着ていただける様入居時に外出着を持ってきてもらっている。女性は化粧道具も持ってきてもらい外出やイベントには化粧をしている。定期的に美容カットをしてもらっている。	朝の身だしなみとして髪をとかず、髷をそることは習慣として支援している。外出時には普段とは違う洋服を着ていただける様入居時に外出着を持ってきてもらっている。女性は化粧道具も持ってきてもらい外出やイベントには化粧をしている。定期的に美容カットをしてもらっている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや誕生日食時には利用者が好きなものを聞き、取り入れている。生活歴を活かし、毎食ごとに準備から配膳・片付けを一緒にしている。	一人ひとりの好みや誕生日食時には利用者が好きなものを聞き、取り入れている。生活歴を活かし、毎食ごとに準備から配膳・片付けを一緒にしている。	利用者の好みを踏まえて職員が交代で準備している。週2回の夕食は自由メニューとなっていて利用者に向けて献立を立て、利用者と一緒に買い物に行く(火・金)。盛り付け・片付けを職員と一緒にしている。月1回の誕生日食は誕生月の利用者の好みのメニューを作るようにしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や病気・ムセ・嚥下状態などを考慮し日々の状態を考えきざみやミキサー食、トロミの使用に対応している。食の細かい方には少なめにし間食する喜びを味わってもらえる様支援している。職員間では誰が対応しても良いように共有している。水分は食事以外にもこまめに補給してもらっている	体調や病気・ムセ・嚥下状態などを考慮し日々の状態を考えきざみやミキサー食、トロミの使用に対応している。食の細かい方には少なめにし間食する喜びを味わってもらえる様支援している。職員間では誰が対応しても良いように共有している。水分は食事以外にもこまめに補給してもらっている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行っている。夜間、義歯は洗浄剤に付けるようにして、清潔、口臭などに配慮している。	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行っている。夜間、義歯は洗浄剤に付けるようにして、清潔、口臭などに配慮している。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して時間での誘導や自身でトイレに行かれる方も声かけしたりと対応している。排泄の失敗がない方には紙パンツから普通ショーツに切り替えている。	個々の排泄パターンを把握して時間での誘導や自身でトイレに行かれる方も声かけしたりと対応している。排泄の失敗がない方には紙パンツから普通ショーツに切り替えている。	排泄チェック表で把握し対応している。自力でトイレに行かれる方・ショーツにパットを使用している方には、手を出し過ぎず足りない部分への対応を心掛け、自立に向けた支援を心掛けている。トイレには失敗した時にパット等をくむ新聞紙が置いてあり、職員・利用者共に利用している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックし早めの対応に心がけている。下剤の服用の回数を減らすように毎朝起きた際に冷たい牛乳や水を飲んでもらっている。薬に頼らず排泄につながる方も増えてきている。	排泄パターンをチェックし早めの対応に心がけている。下剤の服用の回数を減らすように毎朝起きた際に冷たい牛乳や水を飲んでもらっている。薬に頼らず排泄につながる方も増えてきている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	なるべく本人の希望に合わせて入浴出来る様に心がけている。体調に考慮しながら入浴をしている。入浴を拒む場合は無理強いはいしない様にしながら声かけや介助者(同性介助など)を交えるなど工夫をするようにしている。入浴剤も取り入れ入浴が楽しめる工夫もしている。	なるべく本人の希望に合わせて入浴出来る様に心がけている。体調に考慮しながら入浴をしている。入浴を拒む場合は無理強いはいしない様にしながら声かけや介助者(同性介助など)を交えるなど工夫をするようにしている。入浴剤も取り入れ入浴が楽しめる工夫もしている。	毎日、入浴は可能である。週3回を基本とし利用者の希望に合わせて、羞恥心・恐怖感などへの対応には十分な配慮を行い、同性介護に努め安全な入浴を心掛けている。水虫対策で足敷きを古タオルで個々に準備し、各部屋に置いてある入浴電に個人用備品と一緒にセットしてある。浴室にはプザーがあり、2人対応時に使用している。

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校悠ゆう**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息については、一人ひとりの様子や体調に気を配り、自分から言えない方もいるため声かけに配慮している。 夜間においては早く寝ることを無理強いしない様心がけている。寒い時期には個々の希望や状況に合わせて、湯たんぽや電気毛布などを使用し安眠に努めている	休息については、一人ひとりの様子や体調に気を配り、自分から言えない方もいるため声かけに配慮している。 夜間においては早く寝ることを無理強いしない様心がけている。寒い時期には個々の希望や状況に合わせて、湯たんぽや電気毛布などを使用し安眠に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに服薬の説明書が綴っており職員が理解しておくようになっている。また、服薬チェック表に服薬介助した職員名を記入し飲み忘れに気をつけている。変動があった場合は、申し送りノートを活用し情報共有し、気づいた事は記録に残す、職員間で伝え合うようになっている	個人ケースに服薬の説明書が綴っており職員が理解しておくようになっている。また、服薬チェック表に服薬介助した職員名を記入し飲み忘れに気をつけている。変動があった場合は、申し送りノートを活用し情報共有し、気づいた事は記録に残す、職員間で伝え合うようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力に合わせて、掃き掃除、モップかけ、洗濯干し、洗濯物の取り込みなどを行ってもらっている。 嗜好品などの好きな物を提供したり、気分転換としてユニット間や近くの法人施設に遊びに行き交流出来る様になっている。	生活歴や能力に合わせて、掃き掃除、モップかけ、洗濯干し、洗濯物の取り込みなどを行ってもらっている。 嗜好品などの好きな物を提供したり、気分転換としてユニット間や近くの法人施設に遊びに行き交流出来る様になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近隣施設への行き来は日々行っている。 普段行けない場所への外出は、個別外出という形で可能な場所には出かけるよう支援している。 定期的に家族と外出する方やお正月やお盆など数日外泊する方もいる。	散歩や近隣施設への行き来は日々行っている。 普段行けない場所への外出は、個別外出という形で可能な場所には出かけるよう支援している。 定期的に家族と外出する方やお正月やお盆など数日外泊する方もいる。	花の水やり・道向かいの同法人施設・近隣の散歩など日常的に戸外にでて外気浴を楽しんでいる。季節の行事や児童養護施設の子供達と富士川クラフトパークに出掛け楽しい1日を過ごす・買い物ツアーに行く・家族と墓参り・食事・従妹会に出掛ける・正月家族と一緒にホテルに外泊する利用者もいる等、日頃から外出を楽しめる支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物等で職員が付き添うことにより自分で品物を選び、料金を支払い楽しめる支援を行っている。個人で財布を持っている方もいるので、そこから購入することも支援している。	買物等で職員が付き添うことにより自分で品物を選び、料金を支払い楽しめる支援を行っている。個人で財布を持っている方もいるので、そこから購入することも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいとの要望には家族の事情も踏まえて対応している。手紙については最初から書けないと諦めているので一緒に入る様支援している。親戚や知人から来た手紙は一緒に読んだり、部屋に飾るなどしている。	家族に電話をしたいとの要望には家族の事情も踏まえて対応している。手紙については最初から書けないと諦めているので一緒に入る様支援している。親戚や知人から来た手紙は一緒に読んだり、部屋に飾るなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作り品を飾ったりし手作りの空間作り工夫している。共有フロアーには季節ものや花などを飾る様に心がけている。 出来る限り家庭的な雰囲気を出すように工夫している。	利用者の手作り品を飾ったりし手作りの空間作り工夫している。共有フロアーには季節ものや花などを飾る様に心がけている。 出来る限り家庭的な雰囲気を出すように工夫している。	利用者が多くの時間を過ごす共有空間はテレビ・加湿器が2台置かれ、キッチンオープンに成っていて調理の様子や音・匂いを感じることができる。壁には季節ごとの飾りや習字等の作品が飾られ、家庭的で明るく心地良い空間と成っている。トイレはウォッシュレット付便座・シャワー付き洗面台があり、床面は水対応できる素材となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気が合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間であるため、一人になれる場が少ないのが現状だが希望や状況で職員と居室で話したり、一人で居室で過ごすなどの対応をしている。	限られた空間であるため、一人になれる場が少ないのが現状だが希望や状況で職員と居室で話したり、一人で居室で過ごすなどの対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持ってきてもらったり、家族との写真を飾ったりし自身の部屋であることを認識でき、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。身内の位牌は遺影を持ってきている方もいる。紙パンツなどは、人目には分からない様に置くなどしている。	居室には馴染みの物を持ってきてもらったり、家族との写真を飾ったりし自身の部屋であることを認識でき、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。身内の位牌は遺影を持ってきている方もいる。紙パンツなどは、人目には分からない様に置くなどしている。	居室入り口には、手作りの花に名前を書き表示してある。1階はベッド・エアコン・カーテン、2階はベッド・エアコン・カーテン・チェストが備え付けてある。テレビやぬいぐるみ・家族写真等の馴染みの物が置かれ、利用者一人ひとりの個性を感じる居心地の良い居室と成っている。各部屋とも排泄用品が見えないように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られ空間であることで、職員の目が届きやすく、手すりを使った移動も自分で出来ている。居室に続く廊下をリハビリと歩く練習に行き来している利用者もいらっしやる。	限られ空間であることで、職員の目が届きやすく、手すりを使った移動も自分で出来ている。居室に続く廊下をリハビリと歩く練習に行き来している利用者もいらっしやる。		